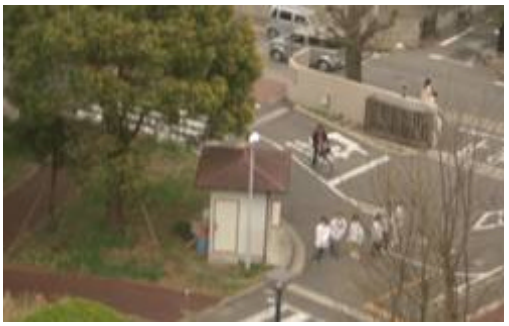
春の嵐と黄砂

写真は東海地方がことし初めての黄砂を観測した 8 日に撮ったものである。この日は朝から春の嵐といった感じだった。研究室前のベランダから、2 時ごろ名古屋駅方面に向かってカメラを向けた。いつもはタワーズなどの超高層ビルがよく見えるが、まったく見えなかった。あたりが黄色くかすんでいるのが、写真からもわかる。

9 日付の中日新聞は、「黄砂舞いかすむ街」と大きく報じた。名古屋気象台によると、市内は午後 3 時、水平方向にどこまで見通せるかを表す「視程」が 4 ㌔に低下した。これは 2000 年以降では最も低い数値という。黄砂は日本から数千㌔も離れた中国内陸部のタクマラカン砂漠やゴビ砂漠などで強風によって舞い上がった砂が、偏西風などに乗って東に移動する現象である。中国では過剰開発による土壌浸食や表土の流出が深刻で、北部や内陸部の砂漠化を加速させている。地球温暖化の影響もあるとされる。

日本と中国との関係は、とくに経済面で交流が強まっているが、黄砂という自然現象からも結びつきを実感した。中国がますます「経済大国」化していくと、日本の気象や環境に深刻な影響を及ぼすことになろう。両国が政治経済面だけでなく、環境面からも連携を強めていく必要があろう。



もう一つの写真は、黄砂の影響でまだかすんでいる正門の方に向けて撮ったものだ。白い服を着た学生は、合宿オリエンテーションから自宅に戻る学生を見送る「オリター」たちだ。さいごは悪天候のようだったが、無事に戻ってきたようで、ほっとした。お疲れさんでした。

(2006年 4月 16日　記)